

# 令和2年度 長沼町外のイベントでの取り組み・商品PR

円山動物園・マルヤマクラス(札幌市中央区)において、タンチョウも住めるまちづくりの取り組み紹介や、タンチョウをモチーフにした商品のPRを行った。コロナ感染拡大防止のため出展可能なイベント等が減少した。

## アースデイin円山動物園 パネル展

日程：9月19日(土)～9月27日(日)  
 場所：円山動物園 動物園センター情報ホール  
 北海道札幌市中央区宮ヶ丘3番地1  
 ・A1サイズのポスターを作成して展示



タンチョウ商品を手に取るチャンス!

タンチョウも住めるまちづくりPR出展します。

期間：2020年10月17日(土)・18日(日)

場所：マルヤマクラス 1階

昨年の様子→



### 長沼町のタンチョウも住めるまちづくり

#### 長沼町タンチョウ復活のストーリー

長沼町のあたりは、かつて沼や湿地が広がっていました。そこは鶴の繁殖地として知られ、野鳥の狩猟が禁止されていました。昭和30年代後半から、農地拡大や宅地開発により、長沼町の湿地は徐々に消失してしまいました。タンチョウも住めるまちづくりの取り組みが、長沼町のタンチョウ復活に貢献しています。

1959年(昭和34年) 農林省(現農水省)が長沼町を「タンチョウの生息地」として指定しました。1985年(昭和60年) 長沼町が「タンチョウの生息地」として指定されました。2012年(平成24年) 長沼町が「タンチョウの生息地」として指定されました。2013年(平成25年) 長沼町が「タンチョウの生息地」として指定されました。2020年(令和2年) 長沼町が「タンチョウの生息地」として指定されました。

#### タンチョウも住めるまちづくり検討協議会の取り組み

2016年9月、長沼町と北海道環境自然保護協会が連携して、タンチョウも住めるまちづくり検討協議会を設立しました。協議会では、「タンチョウの生息地」として指定された長沼町を「タンチョウも住めるまちづくり」に取り組みしています。

#### 長沼町の紹介

長沼町は、札幌市から近いアースデイの町です。2020年度は、タンチョウも住めるまちづくりの取り組みが、長沼町のタンチョウ復活に貢献しています。また、長沼町の自然環境も素晴らしいです。長沼町の自然環境は、タンチョウの生息地として指定されています。長沼町の自然環境は、タンチョウの生息地として指定されています。長沼町の自然環境は、タンチョウの生息地として指定されています。

#### アースデイ・マスコット

野生の生きものとの共生のため、正しい接し方を実践・普及啓発します

- タンチョウの観察・撮影マナー
  - 近づきすぎず、建物や車の中から見る
  - 大きな音を出さずなどして驚かせない
  - 野生動物に餌をあげない
  - 私有地(民家や農地)に入らない

タンチョウ見守り活動中

## マルヤマクラス 出展

日程：10月17日(土)・18日(日)  
 場所：マルヤマクラス  
 北海道札幌市中央区南1条西27丁目1-1  
 来場者数：17日453名、18日389名 計842名  
 売上金額：17日349,170円、18日287,620円 計636,790円  
 参加事業者：長沼あいす、ながぬま温泉、坂下農園、平田農園、ファームクボタ

- タンチョウも住めるまちづくりの取り組み紹介とタンチョウ関連商品をはじめとした長沼町産品の販売を行うブースを出店
- 一定額購入者に対してタンチョウパン親子セットのプレゼントを実施

